



三度目の訪問である稲垣さんは、まだマーライオンを見ていないから、見に行き、マーライオンが吐き出す水を手で受けたいと言われます。なんて、お茶目なのでしょう。願いが叶いましたネ！

シンガポールは獅子を意味する Singa シンハと、都を意味する Pura プーラというサンスクリット語から生まれた国名です。マーライオンはその象徴です。マレー半島の先端にある東西に長い島で、東京 23 区と同じくらいの面積の、都市国家とっていいでしょう。

マーライオンはいつも水を吐き出していますが、スコールが降るからと言って水は豊富ではありません。飲料水は輸入に頼り、その輸入の権利もあと数年だということでした。

シンガポールに詳しい友人が、事前に熱帯海洋性気候で湿度、気温が高いから、「南国風に、ゆるゆるお歩きくださいませ」と助言してくださいました。ところが時間が限られていたので、要所へはバスで回るものの、バスを降りたら、テクテク歩いて行かなければなりません。今回のツアーは高齢者が多く、もう歩きたくないよという御仁たちをしり目に、稲垣さんは見かけも中身も年齢を超越した、タフな方で、スタスタと毎日1万歩以上を記録するほど歩かれました。歩くをマレー語では「ジャラン」と言うそうで、バスガイドは「さあ、ジャラン、ジャランしてくださいね」と言われました。

シンガポール国民の幸いと言えば、バスガイドが何度も言ったように、「国民皆持家制」というか、すべての人が家を持っているということです。働き始めると同時に住宅債権を買わなければなりません。結婚と同時に債権を資金に住宅を所有し、給料からローンが天引きされて、支払います。70～120 m²の広さのアパートが1000万～1500万円です。収入の額に応じて、給付金が出るということです。その住居を 99 年間所有する権利があり、ローンが済めば、貸しても、売っても自由とのこと。高齢者には手厚い福祉があると言います。国立アパートで、差がありませんから、一般の国民は平等感で満たされます。ごく一部の富裕層が土地付き持ち家を購入し、高級車を所有できます。価格の2倍の取得税がかかるということです。国立アパートは高層で何棟かがブロックとしてまとめ、そのコミュニティで日常生活のすべてが充足するような施設が併設されているのです。従って、国民は老後の不安がなく、貯金をする必要がなく、物価の安い、一歩外の外国に遊びに出かけるのが常とのことでした。もちろん、上層部で高度な仕事をしたければ、厳しい競争を勝ち抜く必要があり、それなりの見返りがあります。衣食住の「衣」は熱帯のため薄着一枚あればOK、「住」は保証されていますから、彼らが気になるのは「食」ということです。

稲垣さんのシンガポールの友人が訪ねてきてくれて、庶民の日常を見られるからと言われ、住宅地を案内してくださいました。植栽も豊かで高級車を持つ、立派な一戸建ての住居もありましたが、殆どは国立アパートで、ブロックのコミュニティです。そこに行けばすべてが揃うことがわかりました。中心部にはスーパー、クリニック、図書館はもとより、オープン・テーブルの食堂街が並んでいました。シンガポールの人たちは家で食事を作らず、ここを利用するということでした。友人自身も



ドリアンの屋台の店主

「料理の作り方を知らない」というほどです。さすがに、料理の国の中国系の住民が7割を占める国です。しかも、とても安価で、メニューも豊富でした。友人はシンガポールの9割の人たちが好きだと言う食べ物、果物の王様と言われているドリアンのケーキを買ってくれました。馴染めない臭いが鼻を突きました。勇気を出して、初めて食べてみました。クリームパンに似た柔らかい甘いふっくらした餡のようでした。これを食べて、私はシンガポールに来たんだと実感しました。